

平成26年度埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育研究 研究紀要

研究主題

「地域を愛し、地域に誇りを持ち、人とのコミュニケーションを育む生徒の育成」
～地域、異校種との連携・協働による人づくりを通して～



行田市立埼玉中学校

1 はじめに

行田市は埼玉県名発祥の地、恵まれた自然と歴史的遺産に恵まれた田園都市である。

東日本で随一の規模を誇り、国宝「金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）」が出土したことで知られる「さきたま古墳群」や石田三成の忍城水攻めをテーマとした和田竜氏作「のぼうの城」でも有名な街である。また、今年（27年度）が30回目となる「さきたま火祭り」は、古代のロマンと神話の世界に誘う祭りとして有名である。

本校は、埼玉古墳群を学区内に有する生徒数142名（26年度）、7学級（特別支援学級1を含む）の小規模校であり、ほぼ全員の生徒が近くの埼玉小学校から入学し、生徒全員が徒歩通学をしている。

2 研究の概要

現在の生徒は、間接体験は多いが、地域の方々と触れ合うなど、人とのかかわる機会が減ってきている。そのため、相手の気持ちを理解したり、話し合っ解決したりすることを不得手とし、好ましい人間関係が築けない生徒が見られる。生徒の意識調査からわかったことは、地域に誇りと愛着を持っている生徒が比較的多い中、「あいさつ」、「友だちとの関係づくり」、「自分の思いをうまく相手に伝える」等で苦手意識を持ち、自己肯定感が乏しいということである。

そこで、本校では、様々な人々との交流・体験活動や地域の行事等への積極的な参加を通して、人とよりよくかかわる交流力やコミュニケーション能力の育成を図っていきたい。（交流力とは、人と人、人と社会が有機的につながっていける力、つながっていくことによって自己を高め、お互いを高め合う力のことと定義づけました。）

具体的には、以下に示すような交流（体験）活動を実践していくことでそれらの力が育ち、よりよい人間関係が築いていけるものとする。

<主な交流（体験）活動例>

（1）県立行田特別支援学校との交流

1学年 特別支援学校へ訪問

2学年 本校に特別支援学校の生徒を招待

（2）埼玉小学校との交流

合唱・陸上等の指導

（3）埼玉保育園との交流

3学年 保育園訪問

（4）地域との交流

さきたま火祭りへの参加（全学年）

行田市内探検（1学年）、職場体験（2学年）

地域の方と語る会への参加（生徒会本部役員）

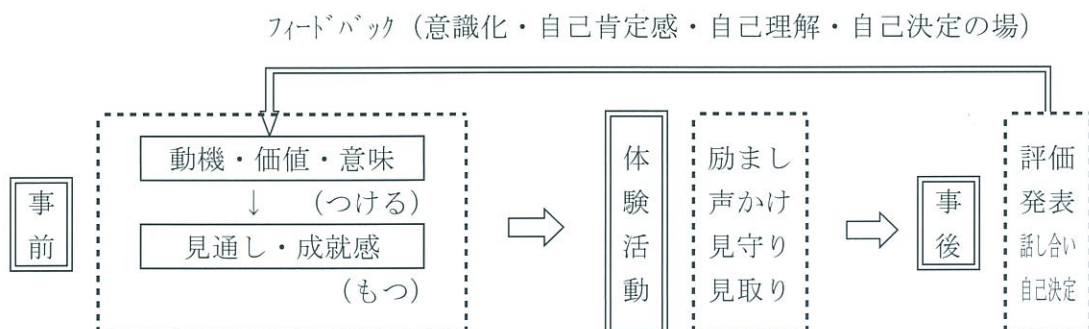
行田のまちをゴシゴシボランティア清掃への参加（全学年）

3 研究の取組

(1) 3年間の系統性を持った体験（交流）活動年間計画

学年 月	1 学 年	2 学 年	3 学 年
4月			
5月	さきたま火祭り（クリーンボランティア・御神火降りボランティア）		
6月	小・中・地域 合同 防 犯 訓 練		
	行田探検	⇒ 東京探検	⇒ 修学旅行
7月	行田特別支援学校との交流会（訪問）	職場体験	
8月			
9月			
10月	行田のまちをゴシゴシボランティア清掃（美化活動）		
11月		行田特別支援学校との交流会（招待）	保育園訪問
12月			
1月	スキー林間学校		
2月			
3月			

(2) 事前指導⇒体験（交流）活動⇒事後指導のサイクルを重視した指導計画



(3) 望ましい人間関係を築こうとする態度を形成する学級活動 年間指導計画

		1 学 年	2 学 年	3 学 年
1	題材	「中学校生活のスタート」	「学級生活を充実させよう」	「いよいよ中学3年生」
	ねらい	新しい人間関係を育み、これからの生活を協力して楽しく送ろうとする意欲を高める。	学級組織づくりを通して、新しい集団における、よりよい人間関係をと態度を育てる。	最上級生としての自覚を深め、1年間の目標と心構えを持つ。
学	題材	「ボランティアから生まれる新しい自分」	「[ちよぼう]」ということばを知っていますか。	「ボランティア活動、わたしはこう考える」
	ねらい	ボランティア活動の意義や活動内容等について理解し、ボランティア活動に参加しようとする意欲と態度を養う。	ボランティア活動の意義を理解し、主体的にボランティア活動に参加する意欲と態度を養う。	ボランティア活動の意義について理解し、ボランティア精神の涵養をはかり、自発的な参加への意欲を高める。
期	題材	「自分を知る、友達を知る」	「社会に生きる一員として」	「自分の個性、友達の個性」
	ねらい	行田特別支援学校との交流に向け、個性を認め合う大切さを知り、温かい人間関係づくりに努めようとする態度を育てる。	社会に生きる一員として自覚し、職場体験に向け社会人としてふさわしいコミュニケーションを図るための意欲や態度を育てる。	自己および他者の個性を理解し尊重する態度を育てる。
2	題材	「地域に生きる一員として」	「中学校生活のまん中で」	/
	ねらい	社会で様々な人が多様な役割を担っていることを知り、中学生としての社会的な役割を自覚させる。	自分や学級をふり返り、残りの中学校生活を充実させるための具体的方策や肯定的態度を育てる。	
学	題材	「よりよい人間関係づくり」	「思いやりから人間関係をつくる」	「豊かな人間関係をつくろう」
	ねらい	思いやる気持ちの大切さを知り、コミュニケーションの意味と重要性を理解させ、コミュニケーションを図るための意欲や態度を育てる。	社会の一員としての自覚を深め、思いやりのある人間関係について理解させる。行田特別支援学校との交流会に向け、意欲的に参加する態度を育てる。	集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築く方法やその重要性について理解させ、人間関係づくりへの主体的な態度を育てる。
3	題材	「自分を見つめ直そう」	「最上級生になる自分」	「未来を信じてはばたこう」
	ねらい	自分を知るための視点や方法を知り、自分の個性を見つめ、個性を伸ばしていこうとする態度を育てる。	2学年をふり返り、3学年の生活をイメージし、進路や最上級生としての自覚や心構えを持たせる。	自分が選択した進路に自信と誇りを持ち、夢や希望に満ちて卒業していこうとする意欲を高める。

(4) 具体的な取組

① 県立行田特別支援学校との交流

1 学年 特別支援学校へ訪問

(ねらい)

- ・ 行田特別支援学校の生徒との交流を通じて、障害のある人に対する理解を深め、「共に生きる社会」をつくる考え方と態度を身につける。
- ・ 同年代の友達との交流を通して、楽しいひとときを過ごす。

(事前の活動)

- ・ 交流会に向けての事前アンケート調査を行う。
- ・ 行田特別支援学校の担当者の講話（「出前授業」）を聞き、理解を深める。
- ・ 講話から学んだことをプリントにまとめる。
- ・ 交流する学年・担当する友達の名前を覚える。
- ・ グループごとにあいさつの担当者を決める。
- ・ 移動ルートを知る。

(当日の活動)

- ・ 移動（自転車）
- ・ 開会行事
- ・ 交流会（ゲーム・歌・踊りなど：行特生35人，埼中生44人）
- ・ 閉会行事

(事後の活動)

- ・ 事後アンケートを書き、交流会を振り返る。
- ・ 交流した生徒に手紙を書く。



2 学年 本校に特別支援学校の生徒を招待

(ねらい)

- ・ 交流活動を通して、心豊かで相手を思いやることのできる生徒を育てる。
- ・ 交流活動を通して、お互いの友情を深め、共に生きようとする態度を育てる。

(事前の活動)

- ・ 学年集会（交流会の意義と目的を聞き、実行委員会の組織決め）
- ・ 学年集会（手話歌の練習・レク内容を知る）

(当日の活動)

- ・ 出迎え
- ・ 開会行事
- ・ 交流会 (歌・レク・ダンスなど)
- ・ 閉会行事
- ・ 見送り

(事後の活動)

- ・ 事後アンケートを書き、交流会を振り返る。
- ・ 交流した生徒に手紙を書く。



②埼玉小学校との交流

(ねらい)

埼玉小学校と埼玉中学校が一致協力し合い、小中一貫教育の実現をめざす。

学習指導	生徒指導	行事・部活動	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業交流 ・ 出前授業 (※3) ・ 授業公開 ・ 合同研修会 (夏季休業中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換会 ・ 小中連絡会 ・ 特別支援教育 ・ 情報共有 ・ 小中特別支援学級の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中地域合同防犯訓練 (※1) ・ 陸上部員の種目別技術指導 ・ 音楽主任による合唱指導 ・ 小学校運動会の手伝い(用具係) (※2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同PTA行事 ・ 人権教育研修会 ・ PTA執行部交流会 ・ マスコットキャラクターの共有



※1



※2



※3

③ 埼玉保育園との交流

3学年 保育園訪問

(ねらい)

- ・本校の近くにある埼玉保育園へ行き、幼児と直接体験することは、幼児と触れ合う機会が少ない思春期の中学生にとって大変貴重で、意義のあることである。幼児と触れ合うことで自分自身の幼児体験を思い起こしたり、保育士さんの大変さを知ったり、成長するのにたくさんの人の援助や支援があったことにも気づかされたりするなどもあり、近い将来社会の一員となっていく中学3年生においてはよい機会である。

(事前の活動)

- ・技術・家庭科の授業で、幼児向けの牛乳パックを再利用したオリジナル絵本を制作する。

(当日の活動)

- ・手作り絵本を使い、近くにある「埼玉保育園」の幼児に読み聞かせをしたり、保育士さんと協力しながら、幼児と楽しく遊んだりする。

(事後の活動)

- ・保育園訪問をふり返り、保育体験（授業）の内容を自分の言葉でまとめ、報告書を作成する。



④ 地域との交流

さきたま火祭りへの参加（全学年）

さきたま火祭りボランティア

(ねらい)

- ・地域の伝統的な行事に参加し、地域の人々と交流を図る。
- ・社会の一員であることの自覚を深めるとともに、相互の協力や助け合いの態度を培う。
- ・自分を見つめ直し、より良い生活を築こうとする態度を育てる。

(事前の活動)

- ・生徒集会において、火祭りボランティアの概要について説明、参加の呼びかけを行う。
- ・事前集会において、集合場所、当日の流れ、注意事項の説明やグループ分け、整列の練習を行う。

(当日の活動)

- ・ 移動手段（自転車）
- ・ 開会行事
- ・ ゴミの分別をしながら回収を行う。
- ・ 閉会行事

(事後の活動)

- ・ ボランティアを振り返り、参加者は感想用紙に感想を記入後、提出する。
- ・ 生徒会役員が生徒の感想を掲示物にし、掲示する。



⑤ 行田市内探検（1学年）

(ねらい)

- ・ 事前調査の大切さを知るとともに、現地へ実際に行かなければわからないことの重要性を知る。
- ・ 班で協力しながら効率よく安全に限られた時間で調査する力を身につける。
- ・ 今まで知らなかったこと、新たに発見した郷土の素晴らしさを知る。

(事前の活動)

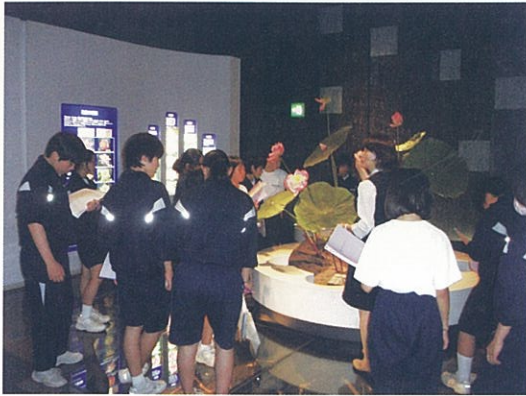
- ・ インターネットや関連図書、各種パンフレット、市内観光案内（地図）等で調べる。
- ・ 見学や体験、インタビューなどで訪問する施設等に事前に電話でポイントを取り、予約をする。
- ・ 活動中のトラブルに対する緊急時対応マニュアルを作成し、事前指導を行う。

(当日の活動)

- ・ 移動手段（自転車）
- ・ 出発式
- ・ 行田市内の探訪
- ・ 帰着式

(事後の活動)

- ・ 調べた事柄や調査したこと、体験したこと、インタビューしたことなどを通して、報告書や新聞作りを行い、発表や掲示をする。（※1学期の期末PTAにおいて、校外学習の発表を行う。）



⑥東京探検（2学年）

（ねらい）

- ・ 埼玉県が隣接する東京都の歴史と文化に触れることで、社会的視野を広める。
- ・ 現存する匠の技や職人、様々な産業、先端技術、文化、歴史、芸術等を見学し、調査や取材することを通して、テーマに沿った課題解決学習を行うとともに、見聞を広める。
- ・ 班別行動を通して互いに協力し合い、協調していくことの大切さを学ぶとともに、よりよい集団行動の在り方や社会のルール、マナーを身につける。

（事前の活動）

- ・ 学年集会において、東京探検の目的を知り、実行委員会の組織や行動班編制を行う。
- ・ 事前調査や事前学習をし、見学、取材、体験を入れた班行動計画の作成を行う。
- ・ 事故・事件等の非常時における緊急時対応マニュアルを作成し、事前指導を行う。

（当日の活動）

- ・ 主な移動手段（電車）
- ・ 東京都内（上野・浅草）の探訪

（事後の活動）

- ・ 調べた事柄や調査したこと、体験したことなどを通して、報告書や新聞作りを行い、発表や掲示をする。（※1学期の期末PTAにおいて、校外学習の発表を行う。）



⑦ 職場体験（2学年）

（ねらい）

- ・実際の職場での勤労体験を通して、将来の職業選択や今後の進路選択に役立つ経験を得る。
- ・働く人々に直接触れることで、将来の就労に対する啓発的な体験を得る。
- ・生産や奉仕等の労働体験を通して、働くことの尊さや意義を学ぶ。
- ・学校を離れた社会の場に出ることで、礼儀やマナー等の社会性や道徳性を高め育てる機会とする。

（事前の活動）

- ・職場体験先の希望調査後、体験場所の決定をする。
- ・パソコン室や図書室を利用して職種別の調べ学習を行う。
- ・体験する事業所へ電話でポイントを取り、事業所との事前打ち合わせを行う。
- ・事故・事件等の非常時における緊急時対応マニュアルを作成し、事前指導を行う。

（当日の活動）

- ・移動手段（自転車）
- ・職場体験活動（3日間）

（事後の活動）

- ・3日間の職場体験の様子を記録し、内容をまとめた体験報告書を作成する。
- ・報告書とお礼の手紙を事業所へ届ける。



⑧ 地域の方と語る会（生徒会本部役員）

（ねらい）

- ・学校評議員（5名）、学校関係者評価委員（3名）、自治会長（17名）、民生児童委員・主任児童委員（8名）、PTA役員（9名）、校長・教頭・教務主任・各学年主任（6名）、生徒会本部役員（8名）の54名（役職の兼任あり）で構成される会であり、本校のさらなる発展のため、お互いの理解を深めるとともに建設的な意見交換を行うものである。平成23年度から始まったので、今年度で4回目である。

（事前の活動）

- ・自己紹介や埼玉中をよくするために実行したいことを自分の言葉でまとめておく。

(当日の活動)

- ・ 開会行事
- ・ 出席者の紹介後、意見交換
- ・ 閉会行事

(事後の活動)

- ・ 意見交換で出された貴重な意見や要望等は大切に受け止め、今後の生徒会活動に生かしていく。



⑨行田のまちをゴシゴシボランティア清掃

(ねらい)

- ・ 行田市民憲章の1つに「自然を生かし美しいまちをつくります」がある。行田のまちをゴシゴシ委員会の働きかけで始まったボランティア清掃も回を重ね、今年度の参加で23回目を数えるほどの年中行事になっている。このような美化活動に参加することは、行田の一市民である自覚を持つことになり、美しい行田のまちづくりの一役を担っているという自負につながる。

(事前の活動)

- ・ 参加者の確認、参加者への当日の活動についての説明を行う。
- ・ のぼり旗や手袋、ゴミ袋等ボランティア清掃に必要な準備を行う。

(当日の活動)

- ・ 移動手段（生徒は自転車）
- ・ 開会行事
- ・ さきたま古墳公園内のゴミの回収
- ・ 閉会行事

(事後の活動)

- ・ 参加生徒にねぎらいの言葉かけをする。



4 成果と課題

<成果>

- ・小中学校の職員同士が顔を合わす機会が増えたことで、情報交換が活発になり、小中連携から一貫教育への移行がスムーズに行われてきている。
- ・埼玉保育園や埼玉小学校、行田特別支援学校との交流を通して、他者理解と思いやりの心が醸成され、多様な人間関係をうまく築こうとする態度や意欲が高まってきた。
- ・以前よりも生徒が意欲的になり、各種ボランティア活動や地域行事に進んで参加するようになってきた。

<課題>

- ・交流（体験）活動の内容や時期、継続か縮小かななどを十分に吟味する必要がある。
- ・交流（体験）活動から得たもの（力）を発揮し、できるだけ学校生活に生かすことができるための具体的な方策を見つけ出し、検討・実践する必要がある。